

新型コロナウイルス感染症の情報管理と活用についての提言 その背景について

2020年9月25日

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 専攻長 教授
橋本英樹

新型コロナウイルスによる肺炎が国内で確認されてから9か月が経過しましたが、国内における感染の動向は依然として予断を許さない状況が続いています。そのような中、感染拡大制御の最前線として保健所が大きな役割を果たしています。

本専攻では、人員不足・体制整備の欠如などによって保健所の業務がひっ迫していることを受け、教員ならびに大学院生に呼びかけて、東京医科歯科大学医学系研究科有志とともに2020年4月から保健所業務の支援活動を継続してきました。

本提言は、この支援活動に関わった大学院生たちによってまとめられたものです。今後の保健所業務の円滑化と効率化に向けて、大学院生たちが新型コロナウイルス感染症情報管理システムや検疫後健康フォローアップ体制などの抱える課題を明らかにし、それらは迅速に改善されるべきであるという問題意識を共有する過程で作成されました。

公衆衛生を学び実践する高度専門人材を育成する教育研究機関として、本提言が持つ社会的意義は極めて高く、また、10月1日付、緩和される入国制限などを鑑みて緊急性を要するものであると受け止め、本専攻ホームページ上に提言を掲載することを決断しました。

本提言の内容が速やかに政策的な取り組みに反映され、一日も早く保健所業務の改善に繋がることを強く希望します。本提言にご賛同される向きは、本提言の拡散にご協力いただくようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の情報管理と活用についての提言

2020年9月25日

東京大学大学院医学系研究科 保健所支援活動チーム 大学院生有志
東京医科歯科大学大学院医学系研究科 保健所支援活動チーム 大学院生有志

当該感染症について、公衆衛生・保健・医療の対応を安定して行うためには、感染者情報の有効な管理と活用が求められます。厚生労働省は、2020年5月より、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理システム(HER-SYS)を導入し、保健所の業務負担軽減、関係機関の情報共有を図っています。また、検疫法に基づく帰国者の健康フォローアップを、保健所が国に代わり実施するシステムも使用されています。しかし現在、現場の感染症業務、多機関間の情報共有、対策立案・検証に有効に活用できている状況とはいえません。保健所における感染対策業務の支援を通じ、以下に挙げる課題への早急な取り組みが必要であることをここに提言します。

1. 国民、医療機関、行政(保健所、都道府県、国)の間で、当該情報システムの運用における目的や責任の所在を明確にする仕組みを早急に構築すべきである。

具体的には、「いつ、だれが、どこで、どのような目的で、何を入力し、使用、公表するのか」を明確にする必要があります。現在、HER-SYSの項目は、感染経路を含む積極的疫学調査の入力は義務ではなく、内容の重複や入力者により解釈が異なる項目があり、適切な情報把握・管理のためには改善が必要です。また、保健所は、陽性者や入院調整に必要な情報一覧を独自に作成する等、HER-SYSとは別に感染者情報を管理することがあり、業務重複の回避が求められます。

2. 国は、都道府県及び保健所に対して、システム運用に必要な人員配置や財源措置を強化すべきである。

特に、国が、検疫法に基づく帰国者の健康フォローアップを都道府県及び保健所に依頼する場合には、感染症法に基づく保健所業務の縮小・停滞を避け、今後の帰国者増加に対応できる水際対策を構築するために、必要な人員配置や財源措置を行うことを要請します。HER-SYS入力業務に関しては、必要な人員経費は感染症発生動向調査事業の補助対象(国1/2、都道府県1/2)であり、活用の促進が求められます。

3. HER-SYS、帰国者の健康フォローアップシステムの技術的な改善が急ぎ必要である。

現状ではシステムの動作が重く、表示、入力、更新に時間がかかり、現場がリアルタイムで効率的に利用する上での障害となっています。まず、原因を明らかにし(厚生労働省のクラウドサーバーの問題、各保健所からのアクセスの一極集中、保健所のネットワーク環境、セキュリティアップデート、備品が古い等)、原因への対処、各保健所が必要な対策を行えるような技術的な指導やサポートが求められます。

4. 感染状況の変化に対し、必要な健康観察情報を持続的に収集できる仕組みを急ぎ構築する必要がある。

自宅療養の陽性者や濃厚接触者の健康観察を行う保健所は、感染者が急増すると業務量がひっ迫し、発熱等の有症状者の見逃しにつながる恐れがあります。そこで、保健所が直接電話で健康観察を行う対象者の範囲を必要最小限にし、陽性者と濃厚接触者自身による HER-SYS を通した健康状態の報告を徹底させるなど、感染状況の変化に対して、限られた人員で、必要な情報を持続的に収集できる仕組みが求められます。